

研究課題名	人工呼吸器管理を必要とするARDS患者の抜管前後の管理方法を中心とした多施設前向きデータベースの構築
研究期間	実施許可日 ～ 2034年12月31日
研究の対象	<p>●この研究に参加いただける方（以下の基準をすべて満たす方）</p> <p>① 重症ARDSと診断され、かつ48時間以上人工呼吸器管理を導入することが見込まれる研究参加施設に入院している患者さん</p> <p>② 同意時に16歳以上の患者さん</p> <p>●この研究に参加できない方（以下のいずれかの基準に該当する方）</p> <p>① 人工呼吸器管理開始前までにすでに気管切開がされている患者さん</p> <p>② 人工呼吸器管理開始からすでに2日以上経過して参加施設に転院してきてきた患者さん</p> <p>人工呼吸器管理開始時点で終末期と判断された患者さん</p>
研究の目的・方法	<p>目的：</p> <p>患者さんの病気は急性呼吸窮迫症候群（Acute Respiratory Distress Syndrome; ARDS）という病気で体の中の酸素を保つために人工呼吸器による管理を必要とする状態です。</p> <p>人工呼吸器による管理は通常の酸素療法では血液の酸素が足りないARDSの患者さんの酸素の値を保つことを可能にします。通常の酸素療法による管理では、病気に対する治療に反応して肺がよくなる前に命を落としてしまう程の重症な病態も、人工呼吸による管理によって原因となる疾患に対する根本の治療の効果がでてきて肺が改善するまである程度待つことができます。重症なARDSの患者さんの死亡率はいまだに50%におよび、人工呼吸器管理開始後の最適な治療戦略はいまだ確立されておりません。特に患者さんの呼吸状態が改善してきた段階で、いつ、どのように人工呼吸器を離脱するかに関しては解明されておりません。</p> <p>以上の背景より、本研究は人工呼吸器管理中のARDSの患者さんに対して、人工呼吸器管理離脱前後のデータを中心にどのように人工呼吸器管理がおこなわれているのかを調べることを目的とした研究です。これまでに同じような研究は国内外を見渡してもあまり行われておらず、本研究の結果によって患者さんと同じ病気に苦しむARDSの患者さんの予後を良くする管理方法を確立できる可能性があります。</p> <p>方法：</p> <p>本研究は患者さんへの侵襲を伴わない観察研究です。通常の診療と同じように診療をして、研究に必要なデータを匿名化した状態で(患者さんを</p>

	特定できる情報は記載せず)、収集させていただきます。収集するデータは以下の通りです。
研究に用いる試料・情報の種類	<p>収集する項目：</p> <p>① 診療録年齢、年齢、性別、既往歴、転帰（30日及び90日死亡の有無、ICU退院時死亡の有無、病院退院時死亡の有無）、ARDSの原因、ARDS発症から抜管までの期間、身長、体重、血液ガス検査結果、血液検査結果、人工呼吸器の設定、抜管前のSBTの方法、抜管前後の食道内圧、抜管前後の呼吸状態、入院後の治療内容、人工呼吸器管理開始後合併症の有無、撮影した胸部CTの読影レポート</p> <p>② 画像データ（抜管前に撮影された胸部CT画像データ）</p>
外部への試料・情報の提供	共同研究機関より広島大学に情報を集め、解析を実施しますが、現時点では本研究において広島大学から他機関へ提供することはありません。
利用または提供を開始する予定日	当院における実施許可日（2024年11月21日）以降
個人情報の保護	試料・情報を提供する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものかわからないよう加工した上で提供します。個人と連結させるための対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。
研究組織	<p>研究責任者 静岡県立総合病院・三好 博美</p> <p>研究代表者 広島大学病院 危機医療センター 特任講師 錦見満暁</p> <p>共同研究機関</p> <p>国内機関</p> <p>国立循環器病研究センター 集中治療科・島谷 竜俊 筑波記念病院 救急科・小森 大輝 福岡大学病院 救急科・仲村 佳彦 国立国際医療センター・松田 航 甲南医療センター・宮崎 勇輔 静岡県立総合病院・三好 博美 香川大学医学部附属病院・山口 智也 広島市立北部医療センター安佐市民病院・波多間 浩輔 湘南藤沢徳洲会病院・日比野 真 八尾徳洲会総合病院・緒方 嘉隆 東京都立墨東病院・西村 実夫</p>

羽生総合病院・富岡 義裕
千葉大学医学部附属病院・島居 傑
雪の聖母会 聖マリア病院・森 竜
岡山大学病院・岡原 修司
JA 広島総合病院・櫻谷 正明
広島市立広島市民病院・星野 駿
山梨県立中央病院・池田 督司
秋田大学大学院医学系研究科・佐藤 佳澄
東京医科大学八王子医療センター・大竹 成明
国立病院機構京都医療センター・田中 博之
市立三次中央病院・芳野 由弥
京都第二赤十字病院・倉田 菜央
岐阜大学医学部附属病院・鈴木 浩大
東京都立広尾病院・中島 幹男
湘南鎌倉総合病院・大木 伸吾
沖縄県立中部病院・酒井 亮裕
滋賀医科大学救急・集中治療部・藤野 光洋
大阪医科薬科大学・雨宮 優
北海道大学病院・和田 剛志
済生会熊本病院・阿南 圭祐
群馬大学医学部附属病院・諸田 潤一郎
松江赤十字病院・田邊 翔太
中国労災病院・村尾 正樹
横浜市立大学附属病院・本澤 大志
横浜市立大学附属市民総合医療センター・谷口 隼人
大垣市民病院・木村 拓哉
金沢大学附属病院・渡辺 知志
練馬光が丘病院・小中 理大
横浜市立市民病院・木内 耕己
東京科学大学病院・大澤一郎
愛知医科大学病院・加藤 浩介
土浦協同病院・鈴木 啓介
大阪急性期・総合医療センター・村尾 修平
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター・佐久田 朝太郎
東北大学病院・入間田 大介
自治医科大学附属さいたま医療センター・小野 将平
東京ベイ・浦安市川医療センター・山本 一太

海外機関

India

Mohan Gurjar, MD, Department of Critical Care Medicine,
Sanjay Gandhi Post Graduate Institute of Medical Sciences (SGPGIMS)

Ghanshyam Yadav, Institute of Medical Sciences, Banaras Hindu
University, Varanasi

Sagarika Panda, Institute of Medical Sciences and SUM Hospital,
Bhubaneswar

Jeevan Kumar J., Adichunchanagiri Institute of Medical Sciences,
Mandya

Kavitha Jayaram, Nizams Institute of Medical Sciences, Hyderabad

Alka Kumari, Indira Gandhi Institute of Medical Sciences, Patna

Rajesh Kasimahanti, Apollo Hospitals, Visakhapatnam

Kalaiselvan M. S., Kauvery Hospital, Chennai

Manu Varma M K, Narayana Hrudyalaya Hospitals, Bangalore

Shreyas Gutte, United CIIGMA Institute of Medical Sciences,
Aurangabad

Asim Kumar Kundu, Institute of Post Graduate Medical Education and
Research, Kolkata

Shiv Lal Soni, Postgraduate Institute of Medical Education and
Research, Chandigarh

Vijay Sundarsingh, Father Muller Medical College, Mangalore

Garima Mishra, Neotia Getwel Multispecialty Hospital, Siliguri

Ankur Sharma, All India Institute of Medical Sciences, Jodhpur

Mustahsin Malik, Era's Lucknow Medical College and Hospital, Lucknow

Nilanchal Chakraborty, Apollo Multispeciality Hospitals, Kolkata

L. Siva Kumar Reddy, Asian Institute of Gastroenterology, Hyderabad

Jayanta Kumar Mitra, All India Institute of Medical Sciences,
Bhubaneswar

K. S. Deepal, Apollo Hospitals, Hyderabad

Saumitra Misra, King George Medical University, Lucknow

KALADHAR S, Yashoda Hospital

DEBOJYOTI DUTTA, Fortis Hospital Kolkata

Ethiopia

Tekiy Markos, MD, Worabe Comprehensive Specialized Hospital

Sara Alemnew Wedaji, Ethiopia Wachemo University Nigist Elieni
Comperhensive Specialized Hospital
Tadele Yayeh Kassa, Ethiopia Butajira General Hospital
Alemayehu Tsegaye Mekonen, Dilla university teaching hospital
Ayto Addisu Negash, Saint Paul's Hospital Millennium Medical College

Greece

Patsaki Irini, PT, PhD, Laboratory of Advanced Physiotherapy,
University of West Attica
Stelios Kokoris, Athens General Hospital (Evangelismos hospital)
Andreadou Stilliani, Chalkidas hospital
Tatouli Ioanna, General Hospital of Athens_Alexandras

Switzerland

Karin Wildi, MD, PhD, Cardiovascular Research Institute Basel,
University Hospital Basel

USA

RAMAKANTH PATA, MD, Medical ICU, St.Cloud Hospital
Daniel Jafari, North Shore University Hospital
Zubair Hasan, Long Island Jewish Hospital
Lisa Santoriello, Plainview Hospital
Jonathan Gong, LIJ Valley Stream
Margarita Oks, Lenox Hill Hospital
Neal Hakimi, South Shore University Hospital
Margarita Oaks, Staten Island Hospital

Italy

Salvatore Notaro, MD, Intensive care unit and ECMO, Monaldi Hospital

Egypt

Lobna Elgamal, MD, Gamal Abdelnaser hospital
Sarah Abdelmohsen, General surgery department, Aswan University
Hospital
Nour Eldein Saad, Critical care department, Alexandria University Main
Hospital

	<p><u>Palestine</u> Alaa Alresheq, Palestine medical complex Puvanendirana Shanmugam, Teaching Hospital Peradeniya</p> <p><u>Turkey</u> AHMET EROĞLU, Karadeniz Technical University Farabi Hospital Leyla Kazancıoğlu, Tayyip Erdoğan University Ali Altınbaş, Giresun University Neslihan Unal Akdemir, Ondokuz Mayıs University Umit Can Ok, Ordu University Tibebu Geremew Haile, St. Peter's Specialized Hospital</p> <p><u>Korea</u> Jin Won Huh, Asan Medical Center Seyoung Jung, Seoul National University Bundang Hospital</p>
<p>その他</p>	<p><u>※既に文書にて同意を取得済の研究対象者の皆様に、研究計画の変更についての情報公開を以下で行っています。</u></p> <p>2026年3月17日申請 共同研究機関 追加、研究登録期間延長</p>
<p>二次利用について</p>	<p>本研究で用いられたデータ等は、将来この研究とは別の研究に利用させていただく可能性があります。これを二次利用といいます。二次利用する際は別途倫理審査委員会で承認後、研究機関の長の許可を得てから使用します。将来の研究に使用した場合は、当院のホームページ（人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開） https://www.shizuoka-pho.jp/sogo/research-support/support/disclosure/へその情報を掲載し、拒否の機会を保障します。二次利用時は海外への提供の可能性もありますがその際も誰のものかわからないよう個人情報を加工した状態で提供します。</p>
<p>研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先</p>	<p>研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としないので下記の連絡先まで <u>2028年4月30日</u>までにお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせくだ</p>

さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

〒420-8527 静岡市葵区北安東 4-27-1

T e l : 054-247-6111

静岡県立総合病院 救命救急科 医長 三好博実